

「理事長就任にあたって」

一般社団法人 自然科学書協会

理事長 飯塚 尚彦



第 71 期定時総会及び臨時理事会に於いて代表理事に選出いただき就任しました産業図書の飯塚でございます。至らぬ点多々あるかと思いますがどうぞよろしくお願いいたします。簡単ではございますがまずは御礼とともに就任のご報告を申し上げます。

さて、2019 年 12 月に武漢肺炎として報道された COVID-19 はその後世界規模の感染となり収束の目処がつかぬまま現在に至っております。我が国でも感染拡大防止の観点から移動制限や集会等の自粛など様々な要請が発せられ、結果、当協会では実施を見送らざるを得ない事業が生じました。残念ながらこの状況が解消されない限り、当期に於いても実施困難な事業が発生する可能性があります。そこで情勢の変化を踏まえつつ事業計画で取り上げたすべての事業について当協会の使命に照らし、必要があれば実行可能なプランに差し替えることも必要と考えております。

今さら申すまでもありませんが当協会の使命は「定款第 4 条」において、「この法人は会員の信頼と協力によって、自然科学に関する出版事業の文化的使命の達成を図ると共に自然科学及びその応用の進歩向上に寄与することを目的とする」と定めております。

また、この使命に基づく具体的な事業とは「定款第 5 条」で、

- 1) 自然科学関連知識の普及及び啓蒙
 - 2) 自然科学関連図書等の国内外への広報及び普及
 - 3) 著作権・著作隣接権等の普及と啓発
 - 4) 自然科学の振興に功績のあった者及び自然科学書出版に特に貢献をした者の顕彰
 - 5) 出版文化向上のための研究会・講演会等の開催及び関連団体との交流
 - 6) 機関紙・図書等の編集発行及びホームページの管理運営
 - 7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- と定めております。

事業年度中に実施困難と見込まれる事業が発生した場合は代替プランを策定し、その変更が軽微であれば理事会議決を経て実行に移す。もし、大きな変更を伴うならば総会議決を経るため実行のタイミングを翌期以降に移すなど、柔軟な姿勢で臨みたいと思います。

また例えば計画策定から 2 年を経て実施できなかった事業については、再考・凍結・廃止等の決断も必要と考えております。当協会は既に一般社団法人への移行が完了しておりますので定款に定めた理念の中であれば新たな事業に取り組むことが容易になりました。いま何ができるのかを判断の基準にしたいと思います。

私が委員会に初めて所属したのは今から 30 年も前になりますが当時構築中だった出版 VAN に関する委員会でした。その出版 VAN 委員会の 1 年目の終り頃、理事会への中間答申も提出し終えた頃だったと思いますが、ある委員が委員会活動について「キザな言い方かもしれないが、委員会活動とは夢を語る場でもあるんだ」と発言されたことを思い出しました。「委員会活動は夢を語る場でもある」という言葉には「夢を語れる場の大切さ」さらには「夢を持つことの大切さ」が含まれていると思います。

グレートリセットだのニューノーマルだの自粛だの分断だの、何かと息苦しい時代ではありますが、次の時代を担う若い方々の中でもし一人でも当協会の活動を通じてなにがしかの夢を見ることができたならば本望、それこそ理事長冥利に尽きるということではないかと思います。どうもまとまりのない文章となりましたが理事長就任のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

<会員社訪問 社長インタビュー No.6>

● 社長紹介 ●

【氏名】曾根 良介^{そね りょうすけ}（現職：理事（2003 年（平成 15 年）～）

● 訪問社情報 ●

【社名】株式会社 化学同人（Kagaku-Dojin Publishing Company,INC）

【創立】1954（昭和 29）年 9 月 1 日

【HP】<https://www.kagakudojin.co.jp/>

【主な出版分野】理学、工学、薬学、生活科学、児童書

【詳細な出版分野】科学一般、一般化学、有機化学、無機化学、物理化学、分析化学、高分子化学、生化学、工業化学、化学工学、生物・生命科学、薬学、食品・栄養科学、スポーツ・健康、図鑑・絵本 ほか



曾根社長

■ テーマ 1「本について」

— 会社の沿革と転機となった本は何でしょうか？

弊社は 1954 年 9 月、小竹無二雄先生（大阪大学教授）をはじめとする阪大・京大 8 名と創立者である曾根寿明・植下定一の出資により月刊誌「化学」を刊行するための同士の集まり「化学同人」が誕生しました。

その後、書籍の出版にも力を注ぎ大学の教科書・専門書を刊行して参りました。

転機となった出版物はいくつかありますが、一つは 1985 年 6 月に岡崎にあります分子科学研究所創立 10 周年記念として「分子の世界」があると思います。従来はいわゆる化学の研究者・学生さん向けの本を出版しておりましたが、「分子の世界」は一般の皆様にも化学をわかりやすく解説した本で書店でもよく売れたのを記憶しております。おかげさまで第 1 回日刊工業新聞社・科学技術図書文化賞も受賞いたしました。

もう一つは、1996 年に初めてアメリカの大学テキスト「ボルハルト・ショア有機化学」の教科書を翻訳・出版したことです。それまでの教科書は多くて 500 ページあるかないかでしたが、この本は B5 版 1300 ページを超える大作で制作費も 1200 万円を軽く超えるものでした。弊社には大型本を作るノウハウがなく上下併せて 5 キロほどにもなり重すぎると先生方から不評だったのを 2 刷りでは用紙を軽くし、次には並製版を価格を下げて刊行し、ようやく評価を得ることができ、現在は第 8 版まで発行し弊社の屋台骨を支えています。

— 本が売れない時代、今後の本への可能性は？

私自身、本が売れないとは思ってはおりません。自社の本が売れないものがあるのは残念ですが・・・

たしかに電車に乗っても携帯を触っている人は目につきますが文庫本であれ本を読んでいる人は少ないですね？！本にはほかの媒体にはない良さがあると信じています。読者が求めている本を企画・制作し販売力を発揮すれば必ず支持されるのではないかと、まだ夢を追いかけていきたいですね。

— 社長にとって本とはどういう存在か、またお薦めの本や愛読書などがありましたら教えてください。

私の両親が本好きでしたので、私が小さいころから家の中にはいたるところに本が転がってありました。

その影響で私も自然に本を手取るようになっておりました。というわけもあったといわゆる絵本を読んでもらった記憶はなくて「世界少年少女文学集」などを読んでもらった記憶はあります。

学生時代は、当時直取引だった四条河原町にあったオーム社書店では伝票で本が購入できたので、五木寛之さんの小説をほぼ読破してました。特に「青春の門」は読売新聞の連載？だったかで次の巻が出るのを待ち遠しくて仕方ありませんでした。その後はアガサ・クリスティやエラリー・クイーンの海外ミステリー小説に

はまり、つぎにロバート・C・パーカーやローレンス・ブロックなどのハードボイルド小説に移行。

現在は、翻訳ものの小説は名前を覚えるのが大変で、池波正太郎や藤沢周平の時代小説、東野圭吾などを乱読しております。また地球環境や最近ではコロナ関連のノンフィクション本も面白いと感じていますが、いわゆるビジネス書や自己啓発書の類いはそんなに読まないですね。

■ テーマ 2「株式会社 化学同人について」

— 会社の雰囲気をごどのように感じていますか？

社員さん同士は仲が良いと思っています。去年はコロナ禍で行けませんでした、毎年社内旅行をしており、みなさん楽しみにしてくれているようです。

また定期的に「サロン」と名付けた飲み会も開いており、自由参加ですが半数くらいは参加しているようです。またどちらの出版社もだと思いますが、弊社も女性社員が半分以上在籍しておりますので、男性社員も一応きちんとしているように感じます。

— 現在の社員やこれから入社してくる若い人へ期待や希望はありますか？

今年春、2人新入社員が入社しましたが、私からは、明るくて元気のいい人をと希望いたしました。編集も営業もある種接客業だと思います。多少失敗してもいいから先生や書店様に元氣よく好かれる人物になってもらいたいと思います。現在2人は研修で書店様にお世話になっておりますので、この経験を生かしてくれることと期待しております。

— 社長が考えるこの会社の一番の財産は何ですか？

よく会社の財産は「ヒト・モノ・カネ」と言いますよね。その中でも絶対なのは「ヒト」だと思います。

先ほども述べましたが、編集であれ営業であれ経理であれ外部の方と仕事でお会いしたときは、その人が会社の看板を背負っていると思います。相手の方から信用される人になるイコール会社が信用されることになるので、「ヒト」が一番の財産だと思います。

■ テーマ 3「自然科学書協会の今後について」

— 今後取り組みたいこと、期待していることは何でしょうか？

自然科学書協会は今期が第71期と歴史ある団体で、また幅広い自然科学分野(医・理・工・農・生活)の出版社の集まりなので、事業目的のトップにあげられている「自然科学関連知識の普及および啓蒙」を様々な活動・行事を通して一般の皆様に応えられたらよいと思います。

また会員社にむけては現在抱えている様々な問題や課題を研修会や勉強会を通じて、入ってよかったと感じられる協会になっていただけると嬉しく感じます。

自然科学書フェア 視察報告

今年の自然科学書フェアは、沖縄県那覇市のジュンク堂書店那覇店で、5月22日～7月2日まで開催しました。

最終日にあたる7月2日に、村上販売・出展委員長、鈴木販売・出展副委員長と私の3名が現地を訪問し会場を視察してまいりましたので、ご報告いたします。

今回のフェア開催に際しては、当初委員6名による棚詰め・設営作業を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に配慮して人員を半数に減らし、急遽現地書店スタッフの方々に協力を依頼し、協働といたしました。また、このたびの視察も当初は6月18日の予定でしたが、緊急事態宣言の影響により日程変更を余儀なくされるなど、昨年同様、新型コロナウイルスに翻弄される形となりました。

店舗2階の会場で、店長の森本様と九州・沖縄地区エリアマネージャーの細井様、トーハン沖縄営業所長の小暮様と面会しました。

会場エリアは、ブルーを基調とした当フェアのポスターやチラシ、パネルの飾り付けで一目でそれと分かる空間が創り出されており、棚もよくメンテナンスされていました。

まず村上委員長から、コロナ禍のもと予定通りフェアを開催して下さった御礼を申し上げ、森本店長からは、当会から進呈した作業協力金について感謝の言葉をいただきました。店舗としては、沖縄県の緊急事態宣言発令に伴い閉店時間を早める措置をとり、来客数の減少など影響はあるものの、ジャンルによっては巣籠りによる需要の増加もみられる、とのお話でした。当フェアにおいても、2018年に同店で開催した際の実績には及ばなかったものの、「ぜひまた当店で開催してください」とおっしゃっていただくことができました。

出来ることならば、更に意見や情報を交換し交流を図る席を設けたいところでありましたが、現下ではそうともゆかず、後ろ髪引かれる思いで店をあとにしました。

会員社の皆様には多くのご出品・ご協力を賜り、ありがとうございました。今回のフェアは展示点数1,057点・2378冊、販売実績322冊でした。

本年9月には、丸善津田沼店にて「自然科学書フェア 2021 秋」を開催いたします。

こちらも引き続きご理解とご協力賜りますよう、お願い申し上げます。

(販売・出展委員会 フェア小委員長 山内 裕)



第 71 期定時総会報告

去る 7 月 15 日(木)、16 時より出版クラブ会館において、自然科学書協会第 71 期定時総会(70 期決算総会)が開催されました。

昨年に引き続き今年の総会も、新型コロナウイルス感染防止のため会員社の皆さまには、議決権行使あるいは委任状出席をおすすめしての開催となりました。

定刻の 16 時、司会者による開会宣言の後に、定款第 28 条に基づき南條理事長が総会議長に指名され、定足数の確認を行い総会に移りました。

定款第 32 条に基づき本総会の議事録署名人として、議長より下出理事、鈴木理事が指名され、議案審議に移りました。

第 1 号議案 第 70 期事業報告書承認の件

第 2 号議案 第 70 期事業年度決算書承認の件

第 3 号議案 役員任期満了に伴う新役員選任の件

第 1 号議案については、小立副理事長が事業報告書の説明を行った後、議長が決議を諮り、可決承認されました。

第 2 号議案については、池田総務委員長が決算報告書の説明を行った後、森田監事が監査報告を行い、議長が決議を諮り、可決承認されました。

第 3 号議案については、第 71 期・72 期役員候補者名簿に基づき、議長が理事・監事の選任決議を諮り、可決承認されました。

引き続き「第 71 期 事業計画および収支予算」について報告がなされ、議長による閉会宣言をもって定時総会を終えました。

なお、定時総会後に例年行われておりました会員報告会ならびに会員懇親会は、コロナ禍の状況を鑑み開催が見送られ、会員報告に関しては書面にて会員社に送付されることになりました。

(総務委員長 池田 和博)



第 69 期・70 期販売・出展委員会総括

村上委員長の下、69 期(2019 年 6 月～)より 2 年間、副委員長を仰せつかっておりましたが、2020 年 3 月来の新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、委員会の活動にも大きな影響を受けた期間でもありました。

結果として、現委員会より二つに再編した小委員会のうち「国際委員会」は、国際ブックフェア出展の支援という役割自体が、参加するはずの国際ブックフェアの開催中止等に伴い、大幅に制限されてしまったことは残念でなりません。

一方、このコロナ禍により従来の生活様式も変更を余儀なくされ、読者の購入習慣等が変わりつつあるなかで、「フェア小委員会」は委員のご尽力により、2020 年に仙台のジュンク堂書店仙台 TR 店、2021 年は沖縄のジュンク堂書店那覇店にてフェアを開催することができ、好評を博しました。これらのフェア開催に携われたことは大変貴重な経験となりました。また、自然科学書協会と加盟出版社のアピールの場としても非常に意義のあるフェアとなったのではないかと改めて認識した次第です。

最後になりますが、村上委員長にご指導頂いたことへの感謝の気持ちはもちろんですが、社業がご多用であるにもかかわらず、コロナ禍で活動が制限される中、当協会の委員会活動に積極的且つ最大限にご協力いただいた委員の皆様にはこの場を借りて、厚く御礼申し上げます。

(販売・出展委員会 副委員長 鈴木 幹太)

第 69 期・70 期著作・出版権委員会報告

去る第 70 期の著作・出版権委員会は、昨年来の新型コロナウイルス感染症蔓延予防の観点から、一度も委員会を招集することが叶いませんでした。昨期(第 69 期)も委員会を招集できたのは 2020 年 1 月 10 日の一度きりで、会員各社を代表して第 69・70 期に著作・出版権委員会にご登録いただいた皆様方には、情報提供・意見交換の場を提供できずに任期 2 年間に満了することとなり申し訳なく存じます。

改正著作権法第 35 条(学校その他の教育機関における複製等)にまつわる授業目的公衆送信補償金制度が、コロナ禍における各学校のオンライン授業に対応すべく、前倒し的に 2020 年度中は保証金を無償(無料)とすることで開始されていましたが、本年 4 月より有償として本来の形で制度が動き始めました。これにより、授業内利用(授業の過程において利用する場合)で、利用著作物が著作権法第 35 条において「必要と認められる限度の範囲内」であり、かつ「著作権者の利益を不当に害しない」場合の両方に該当する場合、紙の複製は従前通り無許諾無償、公衆送信は新たに無許諾補償金として、運用されるようになりました。運用面に関しては、「改正著作権法第 35 条運用指針(令和 3(2021)年度版)」「著作物の教育利用に関する関係者フォーラム」が授業目的公衆送信補償金等管理協会(SARTRAS)のホームページにて公開されていますので、ご参照ください。前述以外の教育利用複製で許諾を必要とするケースについては、補償金を取りまとめる SARTRAS が対応するライセンス、出版社著作権管理機構(JCOPY)が対応するライセンスにそれぞれ管理が分かれる予定となっていますが、その棲み分けは現在のところ議論を重ねている段階です。どちらにせよ、利用者(教育機関)にとって使いやすい、理解しやすい運用を築くことが必要になってきます。

また、著作権法第 31 条(図書館等における複製等)の改正により、①国立国会図書館による絶版等資料のインターネット送信、②図書館等による図書館資料のメール送信等、が 2023 年(令和 5 年)に開始されることが決まっています。①②ともに昨年の緊急事態宣言時のように図書館が閉館となり来館が困難な状況になった場合に対応して、公衆送信で資料を入手できる仕組みです。①については、国会図書館のみでの業務となり、対象も一般に入手困難となっている絶版資料を対象としているため、大きな混乱はないものと思われます。②については、一定の要件を満たした特定図書館において、権利者(著作権者)保護のための厳格な要件の下で、著作物の一部をメールなどにより有償で複製利用できる制度です。補償金を扱うため、授業目的公衆送信補償金と同様な方式で、新たに文化庁が指定した指定管理団体がその運用を一括して行うこととなります。2023 年の開始は決定しており、運用指針や規程などの整備や補償金の取扱い団体の決定などが急務となっています。

コロナ禍でリモート環境が一気に推進されたことで、著作権を取り巻く環境も変化が求められる状況となっています。今後も自然科学書協会の専門委員会として、専門書出版社の立場に立った提言をするとともに、会員各社へ情報共有を図るよう努めていきますので、宜しくお願いいたします。

(著作・出版権委員会 副委員長 筑紫 和男)

第 69 期・70 期研修委員会総括

1 期 2 年、研修委員会の副委員長を務めさせて頂きました。

何分にも初めての研修委員会の副委員長でしたので、至らないことが多くあったと思いますが、吉野委員長や研修委員会の皆様に手助けを頂きながら任期を終えることになり感謝の気持ちで一杯でございます。

さて、研修委員会の主な事業内容としては、有識者をお招きして有益な知識や情報を提供する「研修会」と、科学技術の面白さや奥深さを一般の方に伝える「自然科学書協会講演会」ですが、2020 年(69 期)に大流行しました新型コロナウイルス(COVID-19)による感染拡大はいまだに収束することなく、2021 年(70 期)の研修事業も断念せざるを得ない結果となつてしまい、大変申し訳ございませんでした。

今後はコロナ禍での活動を余儀なくされますが、with コロナのもと感染対策を十分におこなったうえでの従来通りの活動がどこまで可能なのか、または通信手段等を使った新しい活動がどこまで可能なのかを研修委員会として模索していきたいと思っております。

より一層の研修活動を行ってまいりますので、会員各社および関係各位のご理解、ご協力を賜りますよう今後とも宜しくお願い申し上げます。

(研修委員会 副委員長 下出 雅徳)

第 69 期・70 期広報委員会総括

第 69 期・70 期の 2 年間に於いて、広報委員会の副委員長を務めさせていただき、広報委員会の活動を活性化させることをモットーに微力ながら励んでまいりました。

日頃は会員社様には広報委員会の活動に対しまして、多大なご理解とご協力を賜わり、厚く御礼申し上げます。

広報委員会の主たる活動は二つあり、一つは年 4 回発行する会報の企画・編集作業と、もう一つは当協会のホームページからの情報発信です。いずれも当協会の行事案内や活動報告、または業界の様々な動向を会員社はもちろんのこと、外部にも発信するなど重要な任務を担っています。

その任務を果たすべく、会報毎に目次構成やスケジュール等を議題に委員会を開催しました。期首は委員が会議室に集まる形式をとっていましたが、2020 年の 3 月以降は新型コロナウイルスの影響により、オンライン形式となりました。いずれも活発な意見交換が行われました。

中でも当期広報委員会は会報について画期的な改革を実現しました。それは紙媒体から電子媒体への変革です。紙媒体で発行していた当時に広報委員長を務めた自分の経験から、電子媒体へ変わったことによるメリットの大きさを強く感じました。組版・印刷、紙代等の製作費や会員社への発送代がなくなり、大幅なコストカットが可能になりました。また手間ということでも、文字数の調整やレイアウト等の編集作業、完成品の会員社への発送作業、残部の保管管理等がなくなりました。

ただし、個人的な思いとしてはこれまで紙媒体による会報の完成の実感や喜びに比べ、物体のない電子版のためか、そのような感情が薄れてしまったことに若干の戸惑いも感じました。

当協会の会報やホームページは、作り手だけのメリットや満足感だけでは不十分であり、もっとも大事なことは読み手であります会員社様に有益な情報をわかりやすく提供することだと思えます。よって先般、電子版会報とホームページについてアンケートを実施し、皆さんの貴重なご感想やご意見をお聞きました。これは次期広報委員会への申し送り事項の一つにしたいと思えます。

最後に電子版会報を実現されました曾根委員長(化学同人)には強いリーダーシップを感じました。一方で私の不躰な言動には寛大なご配慮をいただきました。また山田委員(化学同人)には会報やホームページの実務作業をしていただきました。そして、島委員(オーム社)、門間委員(共立出版)、逸見委員(南江堂)、増田委員(丸善出版)、新井委員(コロナ社)＜順不同＞には新型コロナウイルスの影響下で自社の多忙な仕事を抱えながら当委員会の活動にご尽力いただきました。協会事務局の高山さんにも様々なご厄介をおかけいたしました。関係各位に深く敬意と感謝を申し上げます。

(広報委員会 副委員長 牛来 真也)

第 69 期・70 期総務委員会総括

前年度に引き続き、Covid-19 感染拡大の影響を大きく受けた 1 年となりました。

理事会開催は Zoom を利用したオンライン会議中心、定時総会は極力委任状もしくは議決権行使書の提出を会員社各位に要請、会員懇親会はすべて中止と、総務委員会が管轄するイベントはことごとく例年とは異なる形での運営を強いられる状況でした。

もちろんオンライン会議にもメリット、アドバンテージはあり、たとえば、物理的な移動時間が不要なため日程調整が比較的容易になることがそうですし、また定例的な議題を肅々と確認していくような会議についてはオンラインのほうがむしろスムーズな進行が図れる場面もあったと考えます。一方で、多面的な要素をもつ課題に対して多くの意見を出し合い、活発に議論し、ひとつの方向性を定めていくような会議にはツールとしてやはり不向きという印象を強くしました。

さらに、意外に重要と感じたのがリアル会議で発生するさまざまな「雑談」の効用です。会議の前後や休憩時間などに、何気ない情報交換やちょっとした意見のやりとりをすることが、実は会議そのものと同程度に協会活動を推進する力となっていたのではないかと、雑談がほとんど存在しないオンライン会議を繰り返し経験して改めて痛感した次第です。

この辺りについては、状況を踏まえつつ、双方向性を維持し雑談的なコミュニケーションを活性化すべく事態を改善する方策を探っていきたいと考えます。

財務面では、これはどの業界団体も同様の状況と思われますが、イベント等の中止による収入減よりもその分のコスト減が上回り、正味財産期末残高はプラスで推移しています。活動はシュリンクしましたが財務的な問題は特段発生していない状況と考えています。

今後は、ワクチン接種状況の進展と変異株拡大とのせめぎ合いの様相が展開され、まだしばらくは予断を許さない状況が続くことが予測されます。

総じて申しあげれば総務委員会の仕事はあくまで裏方と考えております。会員社各位と事務局のご協力を仰ぎ、協会活動が遅滞なく進むよう縁の下で支えることが肝要と存じます。

この未曾有の困難な状況下で、皆さまの健康・命を守りつつ少しでも協会活動が円滑に進むよう、微力ながら努めて参る所存です。どうか引き続きご協力を賜りたくお願い申し上げます。

(総務委員会 副委員長 白石 泰夫)

事務局だより

第 70 期理事会・委員会開催一覧(2021 年 4 月～2021 年 5 月)

第 71 期理事会・委員会開催一覧(2021 年 6 月～2021 年 10 月)

●理事会

＜第 70 期＞

- ・ 4 月 15 日(木)／オンライン方式(Zoom)
- ・ 5 月 20 日(木)／オンライン方式(Zoom)

＜第 71 期＞

- ・ 6 月 17 日(木)／オンライン方式(Zoom)
- ・ 7 月 15 日(木)／出版クラブホール・会議室
- ・ 9 月 16 日(木)／文化産業信用組合
- ・ 10 月 21 日(木)／文化産業信用組合

●監事会

- ・6 月 22 日(火)／オンライン方式(Zoom)

●第 71 期定時総会

- ・7 月 15 日(木)／出版クラブホール・会議室

●委員会

＜第 70 期＞

- ・ 4 月 14 日(水)販売・出展委員会 自然科学書フェア小委員会／文化産業信用組合
- ・ 4 月 14 日(水)広報委員会／オンライン方式(Zoom)

＜第 71 期＞

- ・ 6 月 9 日(水) 販売・出展委員会 自然科学書フェア小委員会／メール審議
- ・ 6 月 11 日(金)選挙管理委員会／文化産業信用組合
- ・ 6 月 11 日(金)役員候補者選考委員会／文化産業信用組合

■5 月 7 日(金)、出版クラブホールにおいて、第 60 回全出版人大会が、新型コロナウイルス感染症の状況から、役員および表彰者のみで規模を縮小して開催された。

編集後記

2021 年会報 Vol.3 をお読みいただき、ありがとうございました。

今号の編集・制作をもちまして、第 69・70 期広報委員会委員としての活動は終了となります。曾根委員長、牛来副委員長のもと、会報電子化の取り組みや会員者訪問(社長インタビュー)などの活動を通じて、委員の皆さまと交流させていただきました。若干心残りなのは、昨年春頃から続くコロナ禍の影響で、委員会はオンライン形式での実施が続き、直接お会いする機会が大幅に減ってしまった点です。残念ですが致し方なし、再びお会いできる日を楽しみにしつつ、その機会を待つとします。

梅雨も明けて、本格的な夏に突入しました。某天気情報サービスによりますと、今年の夏は平年並みか平年以上の暑さとのこと……。マスクとかなり相性の悪い季節ではありますが、引き続き感染症予防対策に取り組み、健康第一で乗り切りたいと思います。

2021 年 7 月 28 日

広報委員: 島 伸行